

# 標野



発行  
阿蘇中央高等学校  
育友会  
2015年3月24日発行  
印刷 つるばやし印刷

## 卒業証書授与式

### 心の価値を大切に

校長 山下 照喜



卒業生の保護者の皆さま、お卒業のご卒業におめでとうございます。これまで手塩にかけ、慈しみ育てられたお子様のご卒業にあたり、感慨ひとしおでいらつしやることと存じます。誠にありがとうございました。在学中に皆さま方からいただきました、数々のご協力、ご支援に対して、あらためて敬意と感謝の意を申し上げます。ありがとうございます。さて、卒業生の皆さま、卒業おめでとう。皆さんの本校三年間の青春の日々、心からの讃辞と祝福の拍手を送りたいと思います。

本校の校訓「岳を仰ぎ 大志を抱き 未来を拓かん」この校訓は、本校の前身であります熊本県立阿蘇農業高校第二分校長百瀬葉千助氏が札幌農学校時代クラーク博士の薫陶を受け、そのときの言葉「少年よ大志を抱け」にちなんで制定されたものであります。この校訓のもと、二校舎制という県内唯一にして初めての環境の中で、皆さんは、授業や学校行事、そして部活動等に、日々励んできました。丁度、皆さんが入学したときに私も本校に赴任しました。以来三年間、一人一人の成長ぶりに驚きと喜びを感じて振り返ると、この三年間、皆さんはいろいろなことに直面したと思います。勉学に没頭したこと、部活動に汗を流したこと、五岳祭や湧穂祭など学校行事に精一杯の力を

出さなかったこと、いざれのこと、皆さんの飛躍の場となりました。また、これらのことは、高校時代の大切な思い出になったことと思えます。思い出は楽しいことばかりではありませんでした。皆さんが高校一年生の七月に経験した九州北部豪雨災害では、多くの方々が尊い命を失われました。心から御冥福をお祈りしますとともに、私たちは災害から学んだ教訓を忘れることなく、今後に生かしていかなければならないと思えます。さて、皆さんの卒業に際して、職の言葉を伝えたいと思えます。

一つ目は、「郷土愛を持つ」ということです。本校は、世界に誇る大阿蘇の自然の中に校舎が位置し、豊かな環境に恵まれて日々の教育活動を営んでいます。この大自然や地域の恵みがなすには阿蘇中央高校の教育は考えられませんでした。高校三年間皆さんを支えてくれた自然環境や地域の方々への感謝の気持ち、すなわち郷土を愛する心を生かして生きていくべきです。二つ目は、「大きな志を持ち続け、実践せよ」ということです。高校卒業後、「こんなことをやってみよう」とか、「或いは」というように「志」を、皆さんはそれぞれ持っていると思えます。その志を遂げられることなく、時に持つことが大切で、苦勞はつきません。しかし、これを常に持ち続けて実践するとなれば、そこには努力と忍耐が必要で、皆さんの人生はしっかりと充実したものとなり、平穩無事な時よりも、苦しい時こそ、悲しい時こそ、大きな志を持ち続け、その実現に向けて実践してください。三つ目は、「社会に貢献する人材であれ」ということです。自分自身のために力を発揮することは必要です。加えて、人のために尽力することを惜しまない生き方をしてください。このことにより、皆さんは、価値ある素晴らしいものとなっていくと思えます。人間社会に貢献できる人材として、それぞれの生き方を精一杯発揮してください。

### 人生を歩む

副校長 北原 政典



卒業生の保護者の皆様、お卒業のご卒業、誠にありがとうございます。今、お子様が入学された時から三年間を走馬灯のように思い返されていることと存じます。人生において最も多感で、心身ともに成長著しい高校時代を見守り、卒業させることが出来た喜びは格別なものと思えます。また、保護者の皆様には、この三年間、本校の発展のために本当にお世話になりました。衷心より御礼申し上げます。

さて、卒業生諸子。いよいよ高校を巣立ち、それぞれの人生を歩みだすわけですが、私からお願ひがあります。それは、自分の人生を誠実に、力強く歩んで欲しいということです。言うまでもなく自分の人生です。他人の目を気にすることは無い。好みに歩めばいい。

しかし、そこには責任があります。人に迷惑をかけるような生き方には必ず結びがきます。自分だけでなく人の幸せのために歩んで下さい。つらい時期には少しづつ、充実した時には大胆に、決して逃げずにはなりません。ゆっくりでいいから前進するのです。強い意志と誠実な心で自分の人生を全うして欲しいと思えます。

### 「先頭に立つ勇氣」を持って

育友会会長 藤井 栄治



三期生の皆さん、御卒業おめでとうございます。山下校長先生をはじめ教職員の方々の皆様には授業はもとより、部活動や進路指導等、いろいろとご指導頂き有難うございました。保護者を代表して深く感謝申し上げます。

皆さんが高校で実践してきた事は、まさしく「習慣と信頼」なのです。何事も習慣付けて行い、人との信頼関係を築き、強い絆を作ると云うことも大切な事でした。高校生活で身に付けた「習慣と信頼」を社会に出ても続け、役立てて欲しいと思えます。

昨年、ノーベル平和賞を受賞した人権活動家のバキスタンの十七歳のマハラ・ユスフザイさんは、宗教上のことかもしれませんが、女の子が学校に通うことを禁ずるようなことは、絶対あつてはならないことだと訴えてきました。皆さんも失敗を恐れず一歩踏み出す勇氣を持って下さい。そして、「先頭に立つ勇氣」をもち、ほんの少しづつでも前進する努力をし、さらに上を目指して挑戦して欲しいと思えます。

先生方と、これまで育てて頂いた保護者の皆様に対する感謝の気持ちを忘れず、マナーを守り、社会に貢献できる大きな人間になってくれる事を願ひ、お祝ひの言葉とさせていただきます。

### 「それぞれの道に向かつて」

育友会会長代理 児玉 光也



阿蘇中央高校第三期卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。三年前に真新しい制服に身を包み入学されたことが、ついこの間のことのように思ひ出されます。

皆さんはこれまでの阿蘇中央高校の先輩方の恩をしっかりと受け継ぎ、両校舎で学び汗を流した三年間、時に苦しく辛いこともあつた日々、ともに分かち合い支えあつて過ごしてきた思い出の数々、そしてその裏側には沢山の人が関わつてくれた事を忘れてはなりません。校長先生をはじめ諸先生方のご指導また地域の

ご協力があつてこそ、今日の日があるのだと思ひます。この春からそれぞれの道に向かつていく皆さん、たとえ進路は異なつても、これから道は自らの手で切り拓いていかなければなりません。また、たとえ道に迷つたとしても、阿蘇中央高校で学び、培つてきた自信と乗り越える「力」があることを信じて頑張つて欲しいと思ひます。そして何事にも感謝の気持ちを忘れず、自分の行動に責任を持つて、社会人、大人になつて下さい。そしてこれまで十八年間そばにいて、ずっと見守つてくれた家族に感謝の言葉「ありがとう」の気持ちを伝えてください。

今日この日まで子どもたちをご指導に尽きされてこられました先生方に心から感謝申し上げます。

### 同窓生代表挨拶



阿蘇校舎 小野 大樹

私には高校生活で大きな思い出が二つあります。一年生の時にボクシング部に入りましたが、部員が少なく、先輩二人と自分と同級生の友人の四人でした。一年の半ばには友人が部活を休みがちになり、毎日出てくるのは自分だけで、後輩として部の仕事を一人で行いきつた思い出をしましたが、「ここでやめるわけにはいかない」と頑張りました。二年になり先輩も引退し、一人で練習を続ける日が続きましたが、友人が戻つてきて、「今度は一緒に最後まで頑張ろう」と言ってくれ、二人で三年の高校総体まで励まし合ひやうとなりました。最後は、「ボクシングをやつてよかった」と充実感を得られました。もう一つは三年の五岳祭です。私は自分で団長に立候補しました。提出物などで注意されたり、周りから信頼されない自分を変えたいという思いでした。団をまとめることは難しかったのですが、少しずつ団員が心を開いてくれました。最後は後輩から「先輩が団長でよかった」、「先輩のようになりたい」と言ってもらい、五岳祭をきっかけに、自信を持って何にでも挑戦できるようになりました。この二つのことは自分の成長に大事なことでした。後輩の皆さんにも、私が感じた充実感を阿蘇中央高校で経験してほしいと思ひます。



阿蘇清峰校舎 中西 遼太郎

私の過ごした三年間は様々なことを体験できた三年間でした。特に一年の時には、九州北部豪雨災害に遭い、ボランティア活動を通して普段何気なく過ごしていた日常がこんなに簡単に崩れるものだと体感させられ、改めて命の大切さを考えるきっかけとなりました。部活動では、三年間野球部に所属し、監督やコーチの指導のもと頑張りました。そのおかげで最後の試合ではレギュラーとして出場することができ、良い結果とまではいきませんでした。後輩に残せたものはあつたと思ひます。学校生活でも部活動でも、こうして三年間楽しい生活を送られたのも、家族、仲間、地域の方々、そして先生方のおかげだと思ひます。私は、大学に進学しますが、ここで学んできたことを発揮して、もっともっと自分を磨いていきます。そして、私の将来の目標である日本一の農家を目指して頑張りたいと思ひます。最後に、私はここで過ごした三年間を決して忘れることなく、阿蘇中央高校生であつたことに感謝したいと思ひます。